

親子でつくろう!

栽培の難易度

中

コンテナの大きさ



大型・深型

ベランダ菜園

ダイコン
(アブラナ科)

ベランダ栽培のポイント

1. 30cm以上の深めの容器か、大型の袋で栽培する。
2. 用土は粒が均一なものを。
3. 直まきが原則。植え替えはできない。
4. 間引きと追肥を適切な時期に行う。肥料切れに注意。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
種まき期間												
収穫期間												

深さのある容器で作る

日本人にはなじみ深い野菜のひとつです。暑さには弱く、冷涼な気候を好むので、春まきと秋まきが作りやすいでしょう。直根類は地下に伸びるので、大きな袋や深めのコンテナを用意して下さい。日当たりのよい場所に置いて、乾いたらたっぷりと水をやりま。まき時に合った品種を選ぶことが成功のポイントです。春まきにはとう立ちの遅い品種を選びます。

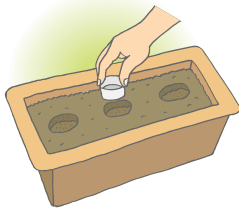
深さのある容器で作る

1. スタート 種まき

長さ20～25cmくらいのミニダイコン(青首種)を作ります。用土に小石や堆肥の塊が残っていると、根が二またに分かれる「また根」になりやすいので、土はできるだけ粒のそろったものを使いましょう。

①種をまく

コンテナに土を入れ平らにならす。株間を20cmくらいあけて、直径5cmのまき穴をあける。

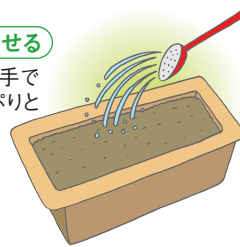


種が重ならないように間をあけてまく

まき穴1か所に4～5粒の種をまく。

②土をかぶせる

土をかぶせて手で押さえ、たっぷりと水やりする。



2. 2週間後

間引き(1回目)

種まきから3～5日で発芽します。本葉が1～2枚になったら1回目の間引きをします。ダイコンは間引きと土寄せが重要な作業になるので、時期を逃さず行います。



本葉1～2枚で3本に間引く。

残った株が倒れないように、周囲からやさしく土寄せする。



3. 3週間後

間引き(2回目) 追肥(1回目)

本葉が3～4枚になったら2本に間引き、生育に応じて化成肥料を施します。株元を押さえて苗を安定させます。間引き菜は葉がやわらかく、葉ダイコンのように食べられます。



化学肥料10gを株元にまき、土寄せする。

葉が重なって込み合ってきたら、2本に間引く。

4. 5週間後

間引き(3回目) 追肥(2回目)

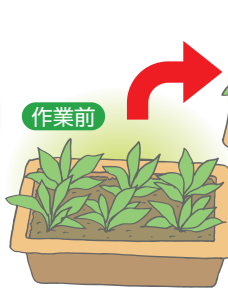
本葉が5～6枚になったら、最後の間引きをして1本立ちにします。株元に追肥し、土をやわらかく耕して土寄せします。間引きや追肥は、早すぎても遅すぎても生育に影響するので、適切な時期に行います。



残す苗の根元を押さえて引き抜く。



化学肥料10gを株元にまく。



作業後

作業前

本葉が5～6枚になったら、最後の間引きをする。

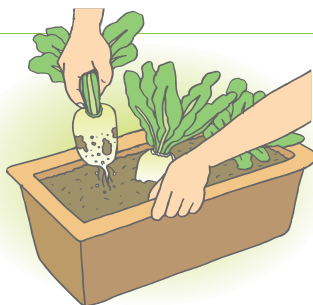


株元にいていない土を寄せる。

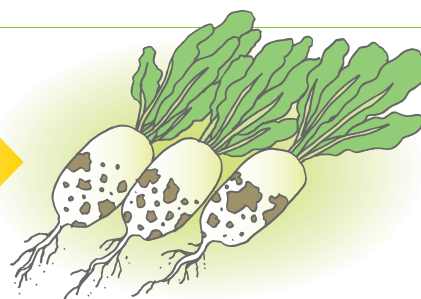
5. 8週間後

収穫

根が生長すると、青首の部分が土の上に顔を出します。根の直径が5～7cmになったら収穫します。抜きにくいときは、周囲の土を崩してやわらかくしてから引き抜きます。



時期を逃すとすぐ入るので、収穫は早めに。



SHARP 冷凍ストッカー 家計応援

買い替えでお得!

20年前の冷凍ストッカーを最新の省エネタイプに替えると...

20年前の冷凍ストッカー
ACOP-1897R(187L)
770kwh/年(16,940円)

最新の冷凍ストッカー
FC-B20W(200L)
230kwh/年(5,060円)

年間で電気代が...
約11,880円お得!

5年間使用で、電気代差額は約59,400円、なんと約1台分!
※20年前のストッカーは、エーコープ製ACOP-1897Rを2006年新測定方法換算し、電気代を1kwh=22円として産出。

年間消費電力
230kwh/年
冷凍ストッカー
FC-B20W
オープン価格

定格内容積
200L

年間消費電力
280kwh/年
冷凍ストッカー
FC-B30W
オープン価格

定格内容積
300L

特別価格 59,800円(税込) 特別価格 69,800円(税込)

ご注文・お問い合わせ JAとうと経済部 ☎68-5120